

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第9期第2回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	令和5年3月23日（木）午前10時～午前10時45分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 301・302会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員14名 (出席者12名) 佐藤和美、伊藤正次、坂田昭夫、山本哲也、砂川利広、青島邦信、金原和義、小坂教光、北野伸雄、萩本幸好、玉木良汰、小野里美(敬称略) (欠席者2名) 星野秀次郎、新居一馬(敬称略) ・ (事務局5名) 環境水道専門官、環境課長、環境保全グループ長 環境保全グループ主任2名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2次磐田市環境基本計画後期計画（案）について ・ 第2次磐田市環境基本計画後期計画概要版について
配 付 資 料 等 の 件 名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議次第 (2) 第2次磐田市環境基本計画後期計画（案） (3) 環境市民会議委員意見一覧 (4) 第2次磐田市環境基本計画後期計画（案）に関する意見募集について（結果） (5) ご意見記入メモ (6) 第2次磐田市環境基本計画後期計画（概要版） (7) 席次表
会 議 録	<p>(1) 第2次磐田市環境基本計画後期計画（案）について</p> <p>【事務局】説明</p> <p>【意見・質問】</p> <p>会 長：ただいまの説明について、質問・意見はありますでしょうか。</p> <p>会 長：この計画をどのように周知していくのか、教えてほしいです。</p> <p>事務局：次の議題にも関わりますが、本計画の概要版を作成しました。</p>

分かりやすい表現でまとめたもので、ホームページなどに掲載する予定です。

(2) 第2次磐田市環境基本計画後期計画概要版について

【事務局】説明

【意見・質問】

会 長：ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

委 員：とてもきれいに作ってありますが、裏面のタイトルが「カーボンニュートラルを目指して」とあり、次の柱が「なぜカーボンニュートラル？」と続きます。その後に「カーボンニュートラルを目指しましょう」となりますが、ここで初めてカーボンニュートラルの説明があります。言葉を知らない人にとっては読み進めないと分からないので、説明をもう少し前の方に入れた方が分かりやすいと思いました。

事務局：配置や記載について、検討します。

委 員：言葉の説明が一番上にあるといいですね。

委 員：概要版を市民に啓発するにあたり、地区で回覧するのか、きめ細かくまちづくり協議会などに出向いて説明するなど、どのようにしていくのでしょうか。

事務局：子どもたちに向けては、中学生向けの環境学習の中で啓発していきたいと思います。市民に向けては、紙を印刷しての回覧は検討していません。事業者向けの啓発は「がんばる企業応援団」という事業で、市の職員が市内企業を訪問する際にお知らせしていく予定です。

会 長：計画の中でこんなことが盛り込まれていますという知らせ方もありますが、市役所内に浸透させて、その市役所内の各課がそれぞれ関係する項目を市民に一つずつ詳しく伝え、呼び掛けるという行動が必要かと思います。各課でそういったことができれば、広がっていくと思います。市民も、おそらく計画全体を

知ることより、身近で自分に関係する事柄について、各課から伝えられた方が分かりやすいと思います。

事務局：おっしゃる通りです。今回の計画を作るにあたり、庁内の色々な部署を巻き込んで施策を検討しています。各部署がそれぞれ関わる市民の方に伝えていくことが効果的と考えます。

委員：細かい点ですが、裏面は計画の基本方針をそれぞれまとめているものと思います。右側中段の「環境教育を推進します」の磐田市の取組みですが、「人間が環境に与える影響について学ぶ」と書かれていますが、環境が人間に与えている恩恵も伝えないと一方通行な印象がします。計画の基本方針を見ると、「人と自然のかかわりについて学ぶ」とあるので双方向性があるように感じます。環境から人間に与える恩恵について知らなくては、環境を守る気持ちにならないのではないかと考えました。細かい点ですが検討いただきたいです。

事務局：検討します。

委員：4番の3Rの取組みの中で、プラスチックごみを減らすとなっています。以前に比べると、家庭ごみのプラスチックごみも燃えるゴミに出せるようになりました。そうすると、再資源化する分が減ってしまうと思いますがどうでしょうか。自分の地域は以前と比較してプラごみが減っています。その分再資源化できていないのではないかと思います。

事務局：5年ほど前にプラスチックごみを燃やすことを決めました。それは、埋め立てゴミを減らすために埋立プラスチックは燃やそう、ほかのものは再資源化しようという目的でした。ただし、汚れて再生できないものは燃やしてもよい、ということなのですが、当時ごみ対策課で危惧していたのは再生できるものも燃やされてしまうのではないかとということです。そちらについては、ごみ対策課も注視しているところですので、ご意見を伝えさせていただいて、対策について検討していきます。

委員：質問ですが、僕はSDGsを身近に感じてもらうことをテーマ

としたイベントを計画しています。こうした、一般人が実施するイベントで、概要版や計画の冊子などを紹介するのは可能でしょうか。

事務局：ぜひ、お願いします。

委員：質問ですが、基本方針 6 の地球温暖化の市民の取組みに、「電気使用量の削減や徒歩による移動などを実践する」と書かれています。計画は「消費エネルギーの削減」と表現しているものを、「電気使用量」としている理由を教えてください。

事務局：中学生にも分かるような表現ということで、「消費エネルギー」ではなく具体的に想像できる「電気使用量」という言葉を使用しています。

委員：先ほど、廃棄物の処分のお話がありましたが、処理場で発電していることや隣接する施設の熱源として利用していることは認識しています。これは、廃棄物を熱源に変えリサイクルするサーマルリサイクルという考え方ですが、処理場は燃やすだけでなく、エネルギーも作っているということをもっと市民の皆さんに知っていただくと、市としての取組みがより浸透するのではと考えました。

事務局：計画の啓発をしていく中で、そういったことも合わせて PR できればと考えています。

委員：概要版が、中学生の環境学習で使われるということですが、時間的に余裕があれば、中学生に見てもらって、分かりやすいとか、もっと知りたいことがあるかなど、意見を聞いて完成させられたら良いと感じました。また、せっかく素晴らしい計画ができたので、こういったものを一度に全部ではなく少しずつでも、広報いわたなどで周知できればと思いました。環境の計画は私たち市民が生きていく環境そのものに関わる内容ですので、一部署だけで責任を担っていくのではなく、市役所全体で市民を巻き込んで取り組んでいけたらと思います。

委員：実際、農業の現場から見ると、肥料のプラスチックコーティン

グが海洋プラスチックとして問題になったり、川がすごく汚れてきたり、山の活用が進んでいないから山のスギやヒノキが痩せて倒木の危険があったり、農家の肥料が川を汚し、工場の排水が地下水を汚染したりと、そういった問題は多数あると思います。現場で起きている環境問題をどうやって解決していくのか気になっています。また、どうやって計画を推進していくのか教えてほしいです。

事務局：ご質問の生活環境については、計画で言いますと基本方針 1、基本方針 2 に該当します。農薬や公害に関する問題については、環境法令に基づいて調査や監視をし、また事業者に指導するなどしていきます。この計画の進捗状況については、計画にそれぞれ施策を列記していますので、関係各課の状況を把握し、この場で報告させていただきます。

会長：物事が改善されていく時というのは、現場の人が感じている課題がきちんと上に上がって、真摯に課題に向き合って解決されていく時です。ですから、現場の人たちが課題をしっかりと発信していくということが大事です。

委員：見やすくて分かりやすい資料だと思います。これを、中学生や市民が手に取ると、磐田市が行うことがよく分かると思います。しかし、地球温暖化などの環境問題は世界レベルの問題です。世界の状況や国の目標値といった資料があればより分かりやすいかと思います。

事務局：中学生の環境学習で使用するときは、これに限らず色々な資料を活用し国や世界の動きなども伝えていきます。また、最近市の若手職員によってカーボンニュートラルを伝える分かりやすい動画を作りましたので、それらも活用し啓発していきたいと思っています。

委員：市民一人一人、みんなが自分事として考えられるように、その気にさせるような PR を考えてほしいと思います。

会長：まずは、なぜこういったことが叫ばれているのかを理解するこ

とが必要です。みんなで課題解決の方向に動いていく必要があるという意識が大切です。

委員：学校や自治会で資源回収をしていますが、そこでみんなが回収したものの再資源化率について教えてほしいです。

事務局：残念ながら、そこまでの資料を持ち合わせていません。そういった資料があれば、皆さんにご紹介します。経済情勢で言いますと、ごみの取り扱いは変動しています。ペットボトルが再利用されていたり、燃やした方がいいという時代があったり、変動しています。事業者の環境投資の動きによっても変わること、非常に変動の大きい数字であるということをご理解ください。

委員：概要版の「できるところからはじめましょう」というところの下に 127 kgとありますが、それぞれの数値を合計すると 157 kg となります。

事務局：ありがとうございます。修正します。

会長：ありがとうございました。大変多くの意見をいただき、活発な議論がなされたと思います。

これで本日の議事は終了いたします。

閉会